

3 新潟市

【基本情報】

- 人口 807,500人（平成25年1月末現在）
- 面積約726.1k㎡（平成23年4月1日現在）
- 新幹線停車地域
- その他特徴 新潟県北東部の都市で同県の県庁所在地であり、本州日本海側では唯一の政令指定都市である。

(1) モデル事業開始時の地域の状況

ア 地域における子ども・若者の状況

近年、家庭や家族の孤立化が進み、地域における人間関係も希薄になっている。地域において異年齢集団の交流は喪失され、同時に郷土の文化に親しむ機会も減少している。若者を囲む環境も右肩下がり経済情勢、この影響による雇用不安、就職難、高い失業率等、夢や希望が感じられない厳しいものになっており、若者だけでなく多くの人たちが生きづらさを感じる時代となっている。新潟市においてもいわゆるニートやひきこもり、不登校等困難を抱える若者の概算総数は20年度ベースでおおよそ9千人と推測される。

このような状況の中、新潟市においては平成23年8月に若者支援協議会を設立し、関係する機関・団体が官民を問わず連携して支援にあたる体制整備を開始した。市内51機関・団体が名を連ねる大所帯となり、その運営において試行錯誤を重ねている段階である。

イ 総合相談窓口の設置状況

総合相談窓口は新潟市若者支援センター「オール」。若者支援協議会においては各関係機関に寄せられる相談のうち、複合的要因による困難事例に対して協議会において検討を行う。

(2) 今年度事業の課題と目標

ア 地域協議会運営に向けた課題

昨年度設置した若者支援協議会の構成団体は51の機関であるが、相談スタッフがリファーした機関は限られていた。

イ 課題を克服するための今年度の目標

若者支援協議会発足後、新たに設置された相談機関や、新潟市内のNPO団体の情報について収集し、若者支援協議会構成団体の見直しの際には加入のお願いをする。

(3) 今年度の実施内容

新潟市では実務代表者会議（地方企画委員会）3回、ユースアドバイザー全体会議（ユースアドバイザー定例会）3回、ユースアドバイザー講習会4回を実施した。

	平成 24 年						平成 25 年		
	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地方企画委員会		○			○			○	
ユースアドバイザー定例会議			○			○			○
ユースアドバイザー養成講習会			○	○	○	○			

ア 実務代表者会議(地方企画委員会)

新潟市若者支援協議会の構成機関の実務代表者を委員とし、各支援機関・団体における複合的な困難事例について情報交換、解決に向けての方向づけを行う機会とした。

図表 56 新潟市における実務代表者会議（地方企画委員会）実施内容

回	日程	実施内容	
1	8月28日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・高校中退者支援について ・平成 24 年度第 1 回個別支援検討会議報告 ・今後の個別支援検討会議について
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・高校中退者の支援について若者支援センター「オール」における取組の進捗状況の報告、サポステから中学・高校との連携、情報提供について現状と課題が話し合われた。 ・個別支援検討会議の報告と今後の運営上の課題として個人情報の共有について、本人の同意が得られない場合、親の同意があれば対応することが確認された。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> ・高校中退者の支援について既にその支援を行っているサポステと若者支援センター「オール」が協力していくことを確認した。
2	11月13日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・高校中退者支援の個別検討会議報告及び個人情報の取り扱いについて ・協議 貧困世帯の子どもへの学習支援について
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・オール、サポートステーション、ひきこもりセンターが中心となり高校中退者支援に取り組む体制について説明が行われた ・東区保護課が生活保護世帯の中学生を対象として行っている学習支援の事例紹介ののち、中学卒業以降の要支援者に対する支援の在り方について検討がなされた。
		運営の工夫、成果	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困世帯の子どもへの学習支援を実際に行っている東区保護課より実施概要についての説明がなされたことにより、教師の集め方等参考にできる点もあったが、サポステ利用者に対して実施する場合の課題や困難性が明らかになった。
3	2月13日	議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・若者支援センター利用者の事例検討 ・高校中退支援リーフレットの紹介
		概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・若者支援センターの居場所、相談、事業の 3 つの柱をフル活用して 1 人の若者について支援計画を持って見

回	日程	実施内容	
			守りながらの支援を行っている事例を紹介し、その手法、考え方についての専門機関との意見交換を行った。
		運営の工夫、成果	・専門機関から事業を活用し、見守りながらの自立支援計画自体について一定の評価は得られた。一方で見立てに必要な情報の不足が指摘され、情報収集、共有についての課題が明らかになった。

イ ユースアドバイザー全体会(ユースアドバイザー定例会議)

新潟市におけるユースアドバイザー定例会は、ユースアドバイザー全体会として実施された。新潟市におけるユースアドバイザーは市民公募により集められ、条件を満たした方に若者支援センター「オール」の居場所の見守り業務を委嘱される。ユースアドバイザー全体会議は居場所の見守りを担う市民「ユースアドバイザー」により自主運営開催される会議である。

年間3回開催された会議は、若者支援協議会の役割と運営について理解する、個人情報の守秘義務を徹底することを目的として開催された。

図表 57 新潟市におけるユースアドバイザー全体会(定例会議) 実施内容

回	日程	実施内容	
1	9月25日	議 題	・オールからの報告 ・ユースアドバイザー運営委員会からの報告 ・研修会-居場所の事例検討会
		概 要	・オールより居場所の利用状況や実施事業の概要、ユースアドバイザーの注意事項等が伝えられた。 ・研修会ではユースアドバイザーの居場所運営上の課題について事例検討がなされた。
		運営の工夫、成果	・研修では会議参加者のロールプレイにより事例紹介を行った。支援者としての具体的な振る舞いがわかりやすくなっただけでなく、演者は若者の気持ちを理解することが出来たとの感想があった。印象に残りやすく、学習効果も高い。
2	12月19日	議 題	・オールからの報告 ・ユースアドバイザー運営委員会からの報告 ・研修会-居場所の事例検討会
		概 要	・オールより居場所の利用状況や実施事業の概要、ユースアドバイザーの注意事項等が伝えられた。 ・研修会ではユースアドバイザーの居場所運営上の課題について事例検討がなされた
		運営の工夫、成果	・研修では班に分かれて4つの事例について班ごとに検討し、発表を行った。 ・平日夜の開催で出席者が少なく、議論が前回と同じような内容になっているとの指摘も出て、会議運営の工夫が課題といえる。
3	2月13日	議 題	・若者支援センター利用者の事例検討 ・高校中退支援リーフレットの紹介
		概 要	・若者支援センターの居場所、相談、事業の3つの柱をフル活用して1人の若者について支援計画を持って見

回	日程	実施内容	
			守りながらの支援を行っている事例を紹介し、その手法、考え方についての専門機関との意見交換を行った。
		運営の工夫、成果	・専門機関から事業を活用し、見守りながらの自立支援計画自体について一定の評価は得られた。一方で見立てに必要な情報の不足が指摘され、情報収集、共有についての課題が明らかになった。

ウ ユースアドバイザー養成講習会

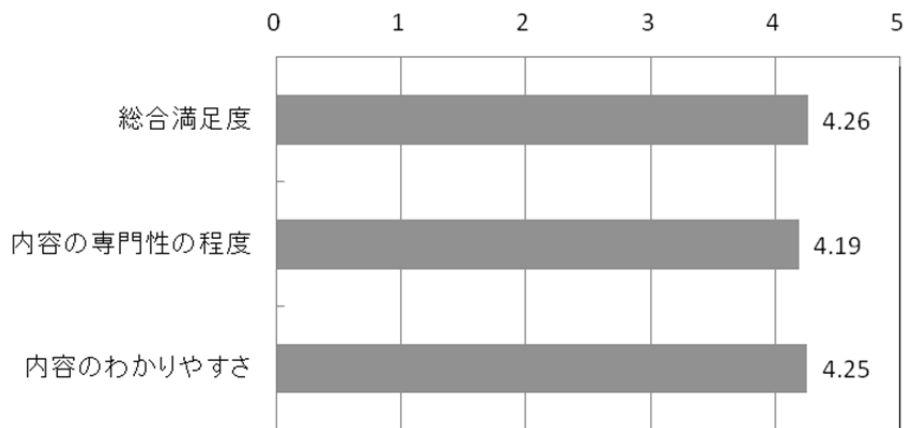
9月から12月にかけて、終日4コマ4日間、16コマ開催された。講師は市内の大学教授、関係機関の専門家の他、若者支援センター「オール」の居場所運営における課題にヒントを得る目的で、若者とのコミュニケーションを実践しているNPO法人から多く講師を招いた。

図表 58 新潟市ユースアドバイザー養成講習会実施内容

回	日程	講習内容	講師
1	9月15日	1. 若者・若者支援者へのメッセージ (90分)	講師：新潟お笑い集団 NAMARA 代表取締役 江口歩
		2. 精神疾患を伴う若者への対応 (90分)	講師：佐潟荘 副院長 中垣内正和
		3. 若者をめぐる状況と自立支援の現状 (90分)	講師：ジャーナリスト 池上正樹
		4. 傾聴の大切さと落とし穴 (90分)	講師：藤田「心の相談室」 室長 藤田悠紀子
2	10月6日	1. 自信を育てるために (90分)	講師：新潟パーソナル・サポートセンター アシスタント・パーソナル・サポーター 市嶋彰
		2. 未来へ希望をもつために (90分)	講師：NPO法人キーパーソン21 代表 朝山あつこ
		3. 若者とのコミュニケーション方法～対話から、自信と進路意識の向上を！①理論編～ (90分)	講師：NPO法人カタリバ 事業部ディレクター 山崎菜々美
		4. 若者とのコミュニケーション方法～対話から、自信と進路意識の向上を！②実践編～ (90分)	講師：NPO法人カタリバ 事業部ディレクター 山崎菜々美
3	11月3日	1. ソーシャルトレーニングの方法・技法①理論編 (90分)	講師：NPO法人「育て上げ」ネット 若年者就労支援課長 工藤彰子
		2. ソーシャルトレーニングの方法・技法②実践編 (90分)	講師：NPO法人「育て上げ」ネット 若年者就労支援課長 工藤彰子
		3. 若者のための居場所づくり①理論編	講師：NPO法人ピアサポートネットしぶや 理事長 相川良子

回	日程	講習内容	講師
4	12月20日	4. 若者のための居場所づくり②実践編	講師：NPO 法人ピアサポートネットしづや 理事長 相川良子
		1. 共生する社会を目指して (90分)	講師：新潟大学大学院 准教授 雲尾周
		2. 青年期の心理 (90分)	講師：新潟青陵大学 教授 碓井真史
		3. いわゆるニート化を防ぐために (90分)	講師：NPO 法人「育て上げ」ネット理事長 工藤啓
		4. 若者支援における基本的態度と役割 (90分)	講師：新潟医療福祉大学 副学長 丸田秋男

図表 59 ユースアドバイザー養成講習会の理解度・満足度
(とても満足5、満足4、普通3、不満足2、とても不満足1)



図表 60 ユースアドバイザー養成講習会受講前後の知識・スキルの変化

講習内容	チェック項目	受講後	受講前	受講後に伸びた割合
若者をめぐる状況と自立支援の現状	若者の自立支援の現状について理解している	4.16	3.76	0.39
若者のメンタルヘルスについて(知的障害、発達障害、精神障害を含む)	知的障害、発達障害について、その特徴と対応の在り方について理解している	3.94	3.68	0.26
*動機付け面接など効果的な面接方法の実習	グループワーク(グループを用いた支援)の意義やその概要を理解している	4.25	3.67	0.58

エ 参加主体(1～3それぞれの参加主体一覧)

図表 61 新潟市における参加主体一覧

	教育	福祉	保健・医療	矯正・更生保護	警察	雇用	その他
若者支援協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・県高等学校教育課 ・市学校支援課 ・市教育相談センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・県児童家庭課 ・市福祉総務課 ・市障がい福祉課 	<ul style="list-style-type: none"> ・市保健所健康増進課 ・市保健所保健管理課 ・新潟市こころの健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟保護観察所 ・新潟少年鑑別所 	<ul style="list-style-type: none"> ・県警察本部少年課 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟公共職業安定所 ・市雇用対策課 ・新潟地域若者サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・市コミュニティ支援課 ・市男女共同参画課

		教育	福祉	保健・医療	矯正・更生保護	警察	雇用	その他	
		<ul style="list-style-type: none"> 一 ・市生涯学習課 ・市中央公民館 ・市中央図書館 ・市中学校長会 ・市地域と学校ふれあい推進課 ・県高等学校長協会(公立) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市子ども未来課 ・市北区健康福祉課 ・市東区健康福祉課 ・市中央区健康福祉課 ・市江南区健康福祉課 ・市秋葉区健康福祉課 ・市南区健康福祉課 ・市西区健康福祉課 ・市西蒲区健康福祉課 ・市東区保護課 ・市中央区保護課 ・市西区保護課 ・市児童相談所 ・市社会福祉協議会 ・県臨床心理士会 ・市民生委員児童委員協議会連合会 ・市発達障がい支援センター ・NPO 法人にいがた・オーティズム 	センター				<ul style="list-style-type: none"> トステーション ・新潟商工会議所 ・うちのスペース・にいがた 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人女のスペース・にいがた ・市観光政策課 ・市国際課 ・市産業政策課 ・食育・花育センター ・NPO 法人ヒーローズファーム ・(有)ナマラエンターテイメント ・ひきこもり・サポートネットにいがた
	個人	—	—	—	—	—	—	—	
実務代表者会議	機関	<ul style="list-style-type: none"> ・市学校支援課 ・市教育相談センタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・市中央区健康福祉課 ・市中央区保護課 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市こころの健康センター 		<ul style="list-style-type: none"> ・県警察本部少年課 	<ul style="list-style-type: none"> ・市雇用対策課 ・新潟地域若者サポー 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人ヒーローズファーム 	

		教育	福祉	保健・医療	矯正・更生保護	警察	雇用	その他
		一 ・市生涯学習課	・市児童相談所 ・市社会福祉協議会 ・NPO 法人にいがた・オーティズム				トステーション	・ひきこもり・サポートネットにいがた
	個人	—	—	—	—	—	—	—
ユースアドバイザー全体会議	機関	—	—	—	—	—	—	—
	個人	ユースアドバイザーに認定され、若者支援センター「オール」の居場所運営を囑託された市民のみなさん						
養成講習会	機関							
	個人	公募により集まった若者支援に関心の高い市民のみなさん						

(4) 今年度事業の成果

ア 協議会参加団体の連携促進

個別支援検討会議を開催し、他の支援機関・団体と関わっている若者の実態を共有することが出来た。また、実務代表者会議を開催し、困難を有する若者に対して各専門機関・団体から具体的な支援策をもらい、課題解決の方向づけを行うことが出来た。具体的には高校中退者の支援において「オール」「地域若者サポートステーション」「ひきこもりセンター」の3者の協力体制が組めたこと等が挙げられる。

イ 若者支援センターの運営体制整備 ～ユースアドバイザーの活用と事業内容の整備～

若者支援センター「オール」の居場所に常駐する新潟市ユースアドバイザーの運営体制の整備が進んだ。ユースアドバイザー運営委員会、ユースアドバイザー全体会議が開催され、研修会と居場所の運営における課題点等が活発に話し合われた。それにより、若者が安心して集い、若者同士がかかわり、若者同士が支え合う関係を築く場面が見られた。ハード面でもリニューアルしたレイアウトが機能し、居場所が和やかな雰囲気になった。

また、若者支援センターにて提供している「支援事業」をキャリア教育の4つの能力によって整理することによって、個に応じた支援プログラムを作成することを開始した。支援事業のプログラムの中には、協議会に参加している NPO 団体と連携しながら開催し、若者の個人情報共有しながら丁寧な支援をすることが出来た例もある。

ウ 評価手法についての検討促進

外部より委員を招いて評価審議委員会を年度内に4回開催した。評価の仕組みについて話し合い、若者支援センター「オール」のための評価シートを作成した。評価シートは若者支援センターの「相談」「居場所」「支援事業」の3つの柱と、管理運営の視点から評価を実施するものとなっており、今後実施していく予定となっている。

(5) 協議会設置に向けた課題（今年度設置した地域は、設置後の課題）

ア 個別支援検討会議における情報共有の問題

個別支援検討会議は、開催する視点がぼやけ、今年度開催回数が少なくなった。ネックとなっているのは、個人情報の共有に関する問題である。現状の個別検討会議では事務局である若者支援センターからの事例提供に留まり、他機関から具体的な事例が協議に諮られることはない。また若者支援センターが他機関に対して情報提供を要請しても提出が難しいという状況がある。他機関では協議会に対する個人情報提供についての同意書を取得していないため提供することができない。

今後は、協働支援策を協議するだけでなく、若者が関わっている支援機関・団体の情報を共有していくことも検討する必要がある。

イ 若者支援センター「オール」の運営上の課題

① 「オール」における個別支援計画の課題

個の支援目標を決め、そのための支援策を考えるためには、自立へのスモールステップによる改善基準が必要である。キャリア教育の4つの能力に沿う基準を明確にし、作成していく必要がある。

② 居場所運営上の課題

新潟市ユースアドバイザーと若者とのトラブルが数件あった。居場所にセンタースタッフが常駐すること、そして、今後も若者との接し方に重点をおいた研修会を通して、力量を高めていく。